西条のお祝い

アナ・ホワイトマン

この秋、私は西条祭りに参加しました。一年間ずっと西条祭りがどんなにすごいかを聞いていたので、行きたかったのです。不運にも西条祭りはだいたい週の途中にあり、私は仕事だったのです。しかし、今年はお祭りが週末にあり、参加できることになりました。より実現が可能になったのは、西条の私の友達がお祭りに招待してくれたことです。

私が友達の藤岡さんのお宅に着いたのは土曜日の午後でした。彼女は私に日本の伝統的な上着を私に手渡し、そして玄関を駆け出しました。神社へ行く途中、私たちは藤岡さんの友達を乗せました。神社でその2人が本殿の周りの全ての社殿を回って手を合わせ、お賽銭をあげているのを呆然として見ました。少なくとも20から30の社殿があったに違いありません。私は本殿と他の社殿、特に全ての社殿を回っている人を見たことがなかったからです。2人が全ての拝礼を終えたとき、最初のだんじりが到着しました。だんじりというのは巨大なお祝いの山車です。とても背が高くて重くて複雑な彫刻がほどこされ、夢中になった男たちが集団でかつぐのです。それぞれのだんじりが西条の各地域から来ており、独特な模様や色でできています。最上段にカラフルなのぼりを乗せた木彫りのものもあれば、明るい色で渦を描いたような派手なものもありました。すべてではありませんが、ほとんどの山車には、彼らが来たことを示す太鼓が中にあります。

2人と私は神社の外の階段に座って、神社の神様のところにやってくる10、20、それ以上にたくさんのだんじりが正面に並んでいくのを見ました。それから一台ずつ、大きな掛け声、歌、甲高い笛を響かせて、男性たちはだんじりをかついで鳥居をくぐって行きました。神社への行列を見た後、私たちは広場へと降りていきました。ここでは、みこしと一緒にだんじりが真ん中を回っていました。でも、これらはちっともみこしという感じのものではありませんでした。私は見たことのあるみこしの中で最も大きく、少なくとも７メートルの高さがありました。これらのみこしは、まるで、何人かの男性が立ち乗りして競走する2つの大きな金の木の車輪を持つ二輪馬車のようでした。みこしの競争、高くそびえるだんじり、何百人もの動き回る見物客は、太鼓、笛の音、歌との不協和音と一緒になり、スリリングな空気を作り出していました。

しかし、およそ88のだんじりと2つのみこしが神様のご神体の場所まで達したとき、そのスリルは恐ろしい出来事となるのです。そしてそれが起きたのです。その週末のみこしの祭典で3人の負傷者が出たのです。どの見物客にとっても、人混みの中で大きな木製の二輪馬車競走を見た後でも、このような驚きはありません。実は、かつてその巨大な建造物に挟まれる死亡事故も起きたことがあるのです。

しかし、危険要素にもかかわらず（もしくは、一部ではありますがそれがあるからこそ）、私は、一度はみなさんに西条祭りに参加してもらいたいと思うのです。興奮でざわざわする空気、誇りをもってだんじりをかつぐ西条の人々。ご存知のように、これらのだんじりがそれぞれの山車の地域の人々の寄付で作られ保管されています。何千万円もかかりますが、人々はそれだけの値打ちのある投資であると信じているのです。彼らは単に地域の誇りを見せつけているのではなく、同時に彼らが西条の誇りでもあるのです。日本に長く住むにつれ、日本の地元のお祭りの中心として何かをかつぐ、夢中になった男たちの役割をより深く理解するようになりました。彼らはそのかつぐ物がどこへ行こうとも何とかしてそこへ行こうとするのです。

訳: 羽藤りえ (Rie Hato)